

(5) 検証授業の分析

ア 道徳的实践への意識（学級全体の意識の変容）

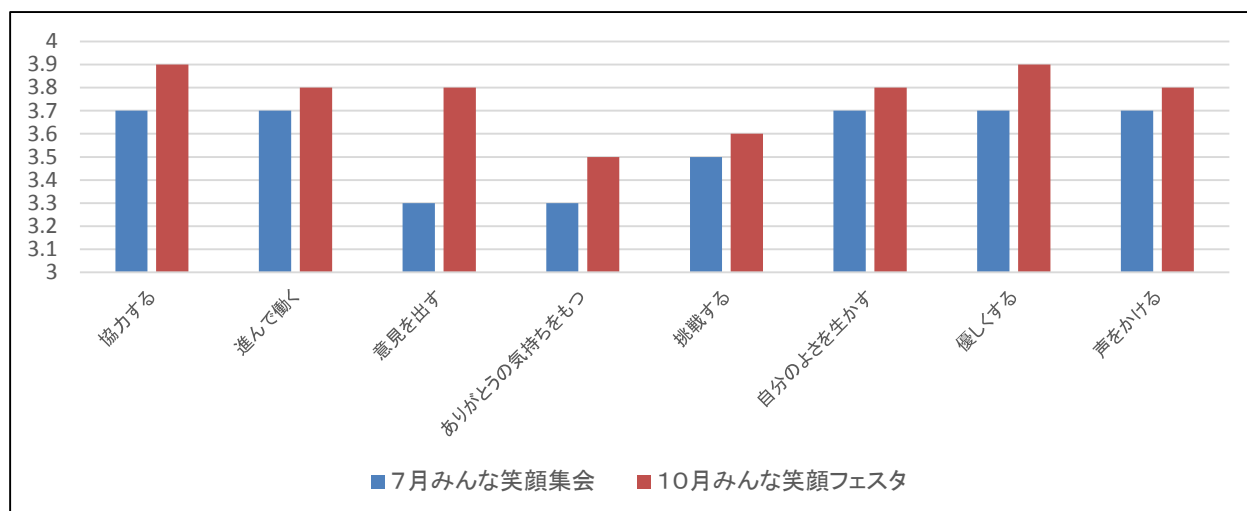


図5 児童の道徳的实践への意識

上記グラフは、児童の道徳的实践についての自己評価アンケートの結果をまとめたものです。「よくできた」「できた」「少しできた」「できなかった」の4段階でアンケートをとり、それぞれ、4ポイント、3ポイント、2ポイント、1ポイントで数値化し、学級全体の平均をまとめました。7月と10月の題材について、児童の道徳的实践についての意識の変化をみると、どの項目についても実践できたという意識が高まっていることが分かります。特に、10月実践の「協力する」については3.9ポイントと高く、集団活動が充実していたことが分かります。また、「進んで働く」「意見を出す」「よさを生かす」という、特別活動で育てたい道徳性に関わりが深い道徳的価値について、できたという意識が高いことも分かります。また、10月実践の「みんな笑顔フェスタ」後の「1年生への思いやりをもつ」についての意識の平均は、3.8ポイントでした。題材から期待される道徳的实践がなされていたことが分かりました。これらのことから、児童の道徳的实践を促すことに効果があったと考えます。

表2 「学級の宝」「宝候補」と価値づけられた項目

	みんなえがお集会		係がんばり週間		みんなえがおフェスタ	
「学級の宝」・「宝候補」	協力する	↑	協力する	ㇿ	協力する	ㇿ
	意見を出す	↑	意見を出す	ㇿ	意見を出す	ㇿ
	挑戦する	↑	挑戦する	ㇿ	挑戦する	ㇿ
	進んで働く	↑	進んで働く	ㇿ	進んで働く	ㇿ
	声を掛ける	→	声を掛ける	→	声を掛ける	↑
	優しくする	→	優しくする	→	優しくする	↑
	よさを生かす	→	よさを生かす	→	よさを生かす	→
	ありがたい気持ちをもつ	→	ありがたい気持ちをもつ	→	ありがたい気持ちをもつ	→
			役割を果たす	↑	役割を果たす	↑
					1年生への思いやりをもつ	↑

→・・・「宝候補」

↑・・・「学級の宝」（使いたい宝）

ㇿ・・・「学級の宝」（使える宝）

上の表Ⅱは、「学級の宝」「宝候補」となった道徳的価値をまとめたものです。3つ目の実践になると、「使える宝」が増えました。「宝候補」から「使いたい宝」、「使える宝」へと意識を高めていったことで、道徳的实践につながっていったと考えます。

イ よさ見付けの意識（学級全体の意識の変容）

表 3 よさや宝についての児童の意識アンケート項目

番号	項目	4	3	2	1
①	友達のよさを見付けることができた	よくできた	できた	少しできた	できなかった
②	友達のよさを見付けていきたい	すごく思う	思う	少し思う	思わない
③	自分のよさが分かった	よく分かった	分かった	少し分かった	分からない
④	自分のよさを増やしていきたい	すごく思う	思う	少し思う	思わない
⑤	3の○のよさが分かった	よく分かった	分かった	少し分かった	分からない
⑥	3の○の宝を使っていきたい	すごく思う	思う	少し思う	思わない
⑦	3の○の宝を増やしたい	すごく思う	思う	少し思う	思わない

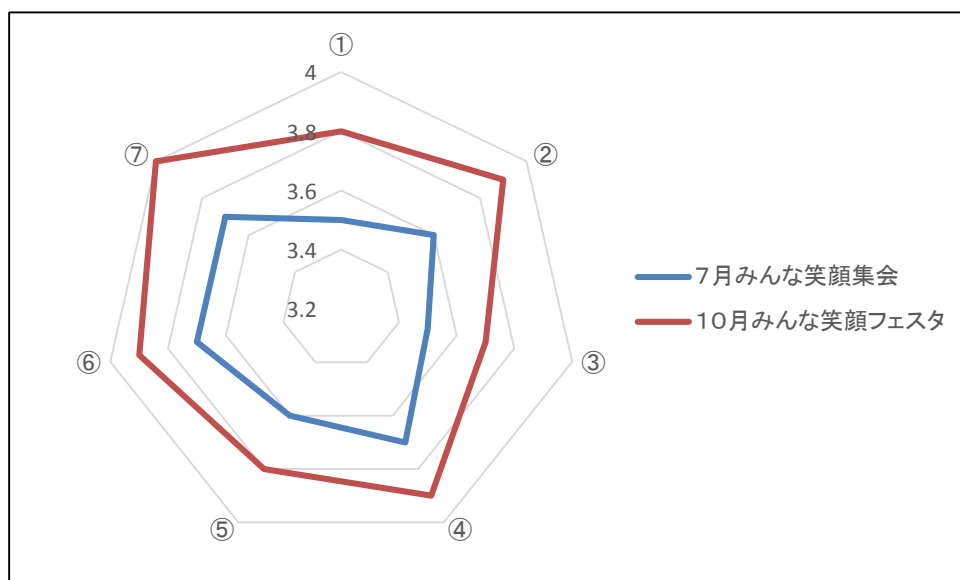


図 6 よさや宝についての児童の意識アンケート結果

「よさ色見つけ活動」や宝（「学級の宝」「宝候補」）についての児童の意識の変容を把握するために、表 3 のようなアンケートを作成し、自己評価をさせました。その結果をまとめたものが図 6 です。

「友達のよさを見付けることができた」が 0.2 ポイントと上がり、それとともに、「自分のよさが分かった」も 0.2 ポイント上がっています。活動のよさを友達に認められたことが、自分のよさを見つめることにつながっていったと考えます。

「友達のよさを見つけない」については 0.2 ポイント上がっています。友達のよさを認めようとする気持ちが育っていると考えます。

「自分のよさを増やしていきたい」が 0.2 ポイント、「学級の宝を使っていきたい」も 0.2 ポイント上がっていることから、実践につながる意欲も高めることができたと考えます。

ウ 道徳的価値の意識化について（抽出児の記述より）

波線部については、授業実践Ⅰ、授業実践Ⅱのページにリンクしています。

(ア) 抽出児Aについて

授業実践Ⅰでは、「よさを生かす」観点で、記念品係の役割を選び、友達と協力しながら活動し、友達から認められたことで、振り返りには「がんばりやさんと言われたから、それを生かして、これからがんばりたい」という感想をもつことができました。

授業実践Ⅱでは、実践活動中に記録した「よさ色通帳」に、すべての「学級の宝」「宝候補」を観点として、同じ係の友達だけでなく、他の係の友達のよさ色も見付けることができていました。また、「係あいあい会議」の記録にあるように、友達の活動のよさを題材のねらいに添って見付け、称賛することもできています。下記は、「あいあい会議」後に、同じ係の友達へ書いたメッセージです。

〇〇さんへ 〇〇さんは、3の〇の使いたい宝も使える宝も宝の候補も全部使って、準備も本番も頑張っていたよ。私も、〇〇さんみたいになりたいな。これからも、〇〇さんの力で、3の〇を楽しくしてね。私がんばるよ。

多くの友達の活動のよさを認めるとともに、これからの活動に対して意欲をもつことができていくことが分かります。

(イ) 抽出児Bについて

授業実践Ⅰでは、「挑戦する」観点で、劇係を選びました。学級会の記録にあるように、劇係の人数が多く、劇係から宝探し係に替わる人を求める場面でも、劇係に挑戦したいという思いを伝えていきます。このことについては、「あいあい会議」において「あいあいカード」を書く際、劇係から宝探し係に替わった友達にメッセージを書き、感謝の気持ちを伝えていきます。この「あいあいカード」のメッセージやめあての振り返りから、劇係として達成感を感じていることがうかがえます。

実践活動Ⅱでは、下記のようなめあてと振り返りを書きました。

めあて

1年生がなげやすいように、わなげを工ふうして、1年生がよろこぶようなわなげを作る。1年生を名前によぶ。

振り返り

1年生とフェスタをして、1年生がありがとうと言ってきて、いろいろおしゃべりができたのでとってもうれしかったです。もっと1年生となかよくなりたいです。

「1年生へ思いやりをもつ」という宝候補を意識してめあてを立て、活動を振り返っていることが分かります。また、「よさ色通帳」の記録を見ると、友達を認めようとする気持ちが育っていることが分かります。6月の実践でめあてを決める際、人前で話すことについて苦手意識をもっていたB児が、10月の実践では、「3の〇あいあい会議」の記録にあるように、友達の活動のよさを学級全体の中でしっかりと認めることができました。下記の「あいあい会議」後に友達に書いたメッセージからは、友達と認め合いながら、よりよい生活を築こうとする姿を見取ることができます。

〇〇さんへ 〇〇さんは、1年生のためにたくさんのゆびわやしゅりけんを作ってきてくれてありがとう。これから私も、人のやくに立つ〇〇さんみたいになりたいです。これからも3の〇が、えがおでいられるようにがんばろうね。